

まちのミュージアム -情報の受信・発信による地域活性化提案-

[提案の趣旨]

距離の概念が消失した「ボーダーレス社会」における中心市街地の機能として、「情報の受信と発信機能」が求められている。インターネットのような端末を使用した情報の享受ではなく実を伴った情報の享受の変革である。そこで「まちの要素を集約する」ことで、既存のまちの魅力の向上と新たなひとの流れの形成により、滞在時間・来街者数・来街回数
の増加、ひいてはを地域の活性化につながる「まちのミュージアム」を提案する。

[静岡市におけるまちのミュージアム]

住宅地と商業地のバッファゾーンである対象敷地を「まちのミュージアム」のエリアとし、中心市街への交通結節点とする。まちの要素を集約した七間町エリアは、情報の集約地として地域の核となる。

[静岡市におけるまちのミュージアム]

情報の受け皿となる映画館跡地は既存建物の有効活用を基本とし、劇場空間の「見る・見られる」関係を継承しながら空間を構成し、建物内のアクティビティを表に創出するように計画する。

[まちづくり実現の仕組み]

行政と市民の協働によるまちづくりを推進するためTMOを立ち上げ、相互連携型エリアマネジメントを行う。

